

2018/2/21

うときゅういっきの英語夜話（ことば夜話）

マネージャー(manager)



以前、どこかで書いたはなしなので、いささか恐縮ですが、それを少しアレンジして、また書いてみます。

以前勤めていた会社でマネジメントノートという冊子がありました。邦訳は「管理者ノート」会社の総務部が管理職向けに発行していた冊子です。

そういえば日本では課長クラスの人のことを英語で表現する場合、名刺の肩書に「マネージャー」と書かれています。

部長さんの場合は、年配者や上級を表すシニアを付けて「シニアマネージャー」と書かれています。

その上の事業部長は、軍隊の大將を意味するジェネラルを付けて「ジェネラルマネージャー」と書かれています。日本ではジェネラルではなく普通「ゼネラル」と書くのが一般的なようです。

省略形で書くと、「M」「SM」「GM」です。どこかで見たことがあるでしょう。

しかし、いずれの場合も共通しているのは「管理者」「管理職」という考え方です。

平の管理者。上級管理者。管理者の大將。という訳です。

ですが、もともと「管理」ならコントロールの方があっている気がします。

コントロールとは「制御する」「操る」です。

マインドコントロールなんかはその最たるものでしょう。操り人形、つまりマリオネットみたいにしてしまうようなイメージです。或はリモコンのことをリモートコントローラーと言いますが、こちらは全く動かずに相手を動かす。そういったイメージだとも思います。おそらく、本心は管理監督なのですが、海外ではコントロールではなくマネージという言葉を使っているから、それを使い出したものの、手抜かりにも「管理する」という本音が出て

しまい、妙な訳語になってしまったようです。

では、マネージとはもともとどんな意味だったのでしょうか？

紐解いてみると、原義は「いざというときに何とかする」とありました。

いざというときに何とかする「ひと」が、マネージャー。

いざというときに何とかする「事」が、マネジメントなのです。

「相手や部下」をどうこうのする、のではなく「自分」がいざというときに何とかする、ことなので、まるで反対に力点があるのです。

どうも、それを全く勘違いしたまま、気づきもしないし疑いもしない「管理者」「管理職」が多すぎるような気がします。

もう一度、よく考えてほしいものだと思っております。

仮にマネージャーを邦訳するとすれば「強きをくじき弱きを助ける」国定忠治や清水の次郎長さん、敢えているなら「任侠道の親分さん」と訳するのが妥当ではないかと、自分は考えております。

ですが、それは何も日本に限ったことではなくて、海の向こうからこの言葉を伝えた、当の外国ですら、これを全く反対に解釈して、取り違えて覚えこんでいる人が多々居るのには驚かされました。本当に。

ことばというのは、一度、原義が何であったか？紐解いてみるのが大切だと思いました。洋の東西を問わず、どなたでも。